

## 「ジャノメチョウの魅力」

ジャノメチョウは、タテハチョウ科・ジャノメチョウ亜科に属する蝶の総称です。たまたま「ジャノメチョウ」という種も存在しますが、一般には、この分類群の蝶全体をさすことが多いようです。

蝶や蛾の翅には前後表裏の区別があつて、頭部に近いほうを「前翅」、腹に近いほうを「後翅」と呼びます。翅を開いた時に見える「背中側」が「表」、閉じた時に見える面が「裏」です。ジャノメチョウの仲間には、名の通り翅の表や裏に裏蛇の目（眼状紋）があります。（蛇の目がなくても形態上ジャノメチョウ亜科に分類される場合もあります。）。蛇の目は表に多い種（飛んでいる時によく見える）と裏に多い種（休んでいる時によく見える）、両方にある種も存在します。ジャノメチョウの魅力は、蛇の目の形・色・数がすべてちがっていて、よく観察すれば種レベルの同定が確実にできることです。



「ウラジャノメ *Lopinga achine*」(本州亜種) 雨を避けて山荘の外壁で休んでいました。写っているのは翅の「裏側」です。裏側にも眼状紋が多いので、「ウラジャノメ」なのです。

昨日が終業式でした。その後残部整理が終わって、夕方の新幹線（E7系の3等車）を降りて、北軽井沢の山荘に戻りました。夜半、この世の終わりかと思うほどの豪雨でしたが、今朝は雨があがっていました。庭を歩いていると、私の好きな「ウラジャノメ」がいました！

ウラジャノメ *Lopinga achine* は、本州では高原でよく見られるジャノメチョウの仲間、名の通り翅の裏に鮮やかな眼状紋が並んでいます。どこにでもいるわけではなく、分布は局所的なようです。幸い北軽井沢では夏の始めに、ごく普通に見られます。前翅・後翅とも大小5個ずつの楕円形の紋があり、左右で20個です。表にも同じ数あるので、合計40個。ジャノメチョウの仲間では蛇の目の数が多い種類です。裏にも蛇の目が多いので「ウラジャノメ（裏蛇の目）」なのです。地味な黄土色なので、森を飛んでいるとよく蛾と間違えられます。

ジャノメチョウの仲間は、花の蜜よりも樹液や果実の汁（或いは獣糞）を好みます。バードテーブルにちょっと古くなったバナナを置いておくと、ジャノメチョウがやってくる場合があります。ウラジャノメは植物よりも、どういうわけか民家の外壁などを好んで休みます。どうも人の気配（特に音）に敏感なようで、カメラを持って近づくと、大抵は逃げていってしまいます。しかし、幸い今日の被写体は「熟睡」していたようで、標準レンズで撮れる位置まで近づけました。



「ウラジャノメの蛇の目」 自然はどうしてこういう幾何学模様を作り出せるのか不思議です。

日本のジャノメチョウの仲間（特に本州以北のもの）は、茶色や黄土色で地味な色のものが多く、「観賞用」としては、今一つ魅力に欠けます。しかし世界中にいる2000種弱のジャノメチョウの中には、「絶対に見て見たいジャノメチョウ」もいます。その一つが「スカシジャノメ」です。

スカシジャノメ、は漢字では「透かし蛇の目」です。トンボのように翅が透けているのだそうです。透明な翅なのに、ちゃんと蛇の目が1個あります。スカシジャノメは南米（ブラジルやペルー）に多いのですが、残念ながら日本には1種類も生息していません。どこかに標本を売っていたら、欲しいです。あ、どなたか、この蝶をさがしに一緒にペルーに行きませんか？



「山荘の網戸にとまるスカシジャノメ」 これは「ドッキリカメラ」です。スカシジャノメは北軽井沢には絶対にいません。これは、私が作った模型です。ははは。

\* 4 ページ目の画像を、OHP シートに印刷して切り取ると、できますよ。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)

